

設計から製造まで一気通貫 技術や経験の蓄積こそ宝

only 1 オンリーワン企業
company



👑 株式会社 アイセス

昭和55年に創業した株式会社アイセス。平成初期という早い段階から再生可能エネルギー分野に参入している。創業以来、40年以上の経験を蓄積した技術力と信頼を活かし、唯一無二の存在感を放つ秘訣について代表取締役の齊藤徹さんにお話を伺った。



代表取締役 さいとう とおる 齊藤 徹
〒018-1512
南秋田郡井川町北川尻字下田面替場11-1
TEL. 018-874-3252
FAX. 018-874-3242
<https://www.aices.jp/>



HP

基板や制御盤などの 設計から納入まで請け負う

南秋田郡井川町に本社を置く株式会社アイセスは、創業当時は電子機器の組み立て業務や基板の製造からスタートし、その後設計部門を立ち上げた。設計から製造、納入するまで一気通貫で対応できることが強みの企業だ。平成30年に代表取締役に就任した齊藤徹さんにお話を伺った。

製造部門では、基板のアセンブリと制御盤・受配電盤製造を行っている。平成初期には秋田県内で最も早い段階で太陽光事業に参入。自家消費型の太陽光発電システムのプランニングから施工、メンテナンスなどのサービスを展開してきた。「設計を得意としているので、県内でも地域によって異なる雪質や日照を考慮するなど、お客様の希望と使用環境にあったシステムを提供しています。」と齊藤さん。

同社で設計・製造している「ソーラーLED街路灯」は県内外へ販売しており、東日本大震災以降は避難誘導灯としての需要が増え、県内におよそ900基、県外も含めると1000基以上の納入実績がある。

確かな技術力の蓄積が評価され、 航空障害灯の共同開発へ

県内で注目されている「洋上風力発電」の分野でも、同社の技術が話題となり、横浜にある日本光機工業株式会社と共同開発した「航空障害灯」が、今年に入り実際に県内の風力発電機に取り付けられた。確かな技術力、開発力を持つパートナーを秋田で探していた日本光機工業株式会社に、県や金融機関が同社を紹介したことが始まりだった。齊藤さんは、特別な技術を持っているわけではないと前置きした上で、開発が実現した経緯について次のように語る。

「日本のものづくりの技術やノウハウは、バブル期以降、海外へアウトソーシングされるようになったことで、技術が分散されて蓄積されづらくなってきた。私たちは設計という分野で一部蓄積ができていたことが強みとなり、評価いただいたのだと思います」。

航空障害灯は風力発電機に特化したものではなく、高層ビルや航空施設などにも活用が期待される。来春には新工場が竣工予定。航空障害灯にも使用されている耐雷性や省エネ技術といった同社の長年の技術を、今後の製品づくりでも汎用させ、「今まで以上にアイセスの特色を伸ばし、地に足をつけて仕事をしていきたい。」と力強く語ってくれた。



共同開発された航空障害灯は県内の風力発電機に設置されている。



従業員数は現在、本社工場と五城目工場を合わせて75名。



図面を読み解きながら、配電盤の製造を行う。